

まちかど ネットワーク

募集します!! 平成8年度
あなたのまちの
ネットワークカー

広報ふじから
 まちの話題を発進する
 「まちかどネットワークカー」に
 なってみませんか

「まちかどネットワーク」は、広報ふじ五日号の定番コーナー。皆さんからのご意見や、地域での情熱あふれる活動、個人の感動的な生きざまなど、富士市内の話題や情報を発信しています。

そのためには、富士市内で起きている「今」を常に把握していかねければなりません。何せ情報というものは生き物。新鮮なネタは、とてもおいしいけれど、古くなるとは価値が下がります。

そこで、まちの情報に詳しいあなたの協力が必要になるんです。

ぜひ「まちかどネットワーク」にご応募ください。あなたも広報ふじづくりに参加してみませんか。



ネットワークカー公共施設見学 △ロゼシアター▽製紙工場

ネットワークカーって何する人？

簡単に言えば「地域情報通信員」。皆さんの地元や職場のホットな話題、ユニークな人物やグループなどを紹介していただければいいんです。それから、「隣の家の庭にとっても珍しい花が咲いたんですよ」なんて情報もOK。気軽にいろいろな情報をお寄せいただきたいですね。

また、応募資格や定員はありません。情報の内容や、連絡方法も自由です。そして、時々ネットワークカー仲間が集まっていたら、ワイワイと情報交換する場を設けます。ただし、任期は二年。報酬もありません。楽しい仲間づくりができるということでご勘弁を。あなたからの情報が、広報ふじから発信される日も間近。今すぐ広報広聴課までご連絡ください。



申し込み・問い合わせ

六月五日(水)までに広報広聴課へ

☎ 五一一〇一二三

(内線二八二二)

FAX 五一一一四五六



無償で子供を預かり三十年
 留守家庭児童会石川学園代表

石川文江さん
 (天間・82歳)



子 供が小学校から帰っても、親が仕事などで留守の家庭。そのような家庭は、高度成長期以後、一気にふえました。働くお母さんの増加に伴い、かぎっ子という言葉も生まれたころのことです。

石川さんが「親が仕事から帰ってくるまでの間、学習指導をしたり、遊び相手や相談相手になったりして、明るく素直な子供に成長させてあげたい」と子供たちに自宅を開放したのは、高度成長期と同時期の三十年前のことでした。

奈 良時代の光明皇后が慈悲を持つて治療院や孤児院を設けた話や、御殿場市のある病院の創始者が全財産を売って、らい病患者を救済した話に感銘を受け、石川さんは、いつか自分も人の役に立ちたいと思いついていました。

「昭和四十一年、教育に情熱を注ぐ私を応援してくれていたしゅうとめが亡くなりました。そして、それをきっかけに、私は奉仕の仕事に生きようと決心したのです。」

最初は、私設養老院をやるうと思いましたが。しかし、夫に「それよりも、長い間してきた教育の仕事を生かした方がいい」と言われ、ほかにも多くの人の助言を受けて、留守家庭の子供たちの面倒を見させていただくことにしたのです。

夫は全面的に協力してくれました。納屋を改造し、庭の樹木を植えかえ、ブランコや鉄棒も備えつけてくれました。学園を始めて六年後、夫は他界しましたが、多くの皆さんの協力があつたから頑張つてこられたのだと思います。

六 百人余の児童が、石川学園を巣立っていききました。卒園生は今でも、近況を知らせに学園を訪れます。月謝や入園料は無料でも、石川さんから受けた愛情は値のつけられない貴重なものでした。現在では、十五人の子供たちが在園。「複雑な家庭環境の子もいます。命をかけてでもやめることはできませんよ」と石川さんは力強く語ってくれました。